

消化器内科の常勤医師は2名であったが、外科医師、内科医師による支援を受けた。内視鏡検査技師、看護師のマンパワー不足の問題もあり、消化器内科スタッフのマンパワー不足は解消できなかった。また、消化器内科外来は週4日であり、肝臓専門外来を熊本大学医学部附属病院から派遣の非常勤医師が週1日担当した。

内視鏡検査実績 (件)

	2015年度	2016年度
上部消化管 (処置、検診を含む)	1,546	1,512
下部消化管 (処置を含む)	643	616
ERCP (処置を含む)	10	16
超音波内視鏡	0	0

内視鏡治療実績 (件)

	2015年度	2016年度
食道ESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)	0	0
胃ポリペクトミー (EMRを含む)	2	4
大腸ポリペクトミー (EMRを含む)	58	58
胃 ESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)	6	5
大腸ESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)	3	1
食道胃静脈瘤治療 (EVL, EIS, APC)	1	2
内視鏡的止血術 (上部)	2	17
内視鏡的止血術 (下部)	3	4
異物除去	24	18
食道狭窄拡張術 (ステント、バルーン)	5	12
PEG造設	14	9
PEG交換	30	37
内視鏡的採石術	1	1
内視鏡的胆道ステント留置術	4	6
内視鏡的乳頭切開術	1	5

内視鏡検査件数は前年度と比較して全体的に減少したが、ERCP件数のみ増加した。また、内視鏡治療件数は前年度と比較して特に内視鏡的止血術 (上部)、内視鏡的乳頭切開術、食道狭窄拡張術などが増加した。

主な消化器疾患入院症例数(主病名のみで重複なし) (例)

	2015年度	2016年度
逆流性食道炎	5	0
マロリー・ワイス症候群	1	2
食道・胃静脈瘤	3	0
食道異物	1	1
早期食道癌	0	0
進行食道癌 (術後を含む)	6	0
胃ポリープ	2	3
早期胃癌 (外科転科症例を含む)	4	6
進行胃癌 (外科転科症例を含む)	5	5
好酸球性胃炎	0	0
(出血性)胃十二指腸潰瘍	21	6
小腸間葉系腫瘍	0	0
大腸ポリープ	55	45
大腸LST	1	0
大腸癌(腺腫内癌、外科転科症例を含む)	18	11
大腸憩室出血	3	7
感染性腸炎 (出血性腸炎を含む)	12	18
イレウス(サブイレウスを含む)	7	1
虚血性大腸炎	9	10
潰瘍性大腸炎	0	1
大腸憩室炎	4	1
偽膜性腸炎	1	1
上腸間膜動脈症候群	1	2
S状結腸軸捻転	0	1
直腸カルチノイド	1	0
消化管出血 (出血源不明)	9	15
急性虫垂炎	0	1
癌性腹膜炎	0	2
肝障害	1	1
急性肝炎	1	1
自己免疫性肝炎	0	1
原発性胆汁性胆管炎	1	0
肝硬変 (肝不全を含む)	1	1
肝性脳症	3	7
肝細胞癌	0	4
胆管細胞癌	0	0
肝膿瘍	0	1
胆石胆嚢炎 (外科転科症例を含む)	3	5
総胆管結石 (術後を含む)	7	8
急性胆管炎	3	6
胆管癌	2	6
胆嚢癌	1	2
急性膵炎(慢性膵炎急性増悪を含む)	8	1
自己免疫性膵炎	0	1
膵臓癌	1	6
悪性リンパ腫	2	2
その他	133	175

入院症例の高齢化に伴い、何らかの合併症を有する症例が多かった。手術や化学療法可能な症例が減少し、緩和ケアを行う症例が増加した。消化管疾患においては、大腸憩室出血、消化管出血、感染性腸炎などの症例が増加した。肝胆膵疾患においては、肝細胞癌、膵臓癌、肝性脳症症例は増加した。また、済生会熊本病院 腫瘍内科との連携により、大腸癌、膵臓癌、胆嚢癌などの化学療法も施行した。